

# 宇宙飛行士講演会

「宇宙に関する職業に就こう！」

講師

金井 宣茂

宇宙飛行士

## 「宇宙飛行士を目指すようになったのは大人になってから」

「宇宙に近いまち」鳩山町で、子どもたちに宇宙科学や宇宙開発への理解を深め、興味・関心を持ってもらうことを目的に、令和4年7月12日に、～子どもたちに夢をプロジェクト～JAXA 宇宙飛行士による講演会「宇宙に関する職業に就こう！」を開催しました。

この講演会は、新型コロナウイルス感染対策として、対面及び、YouTubeによるライブ同時配信のハイブリッド方式で実施しました。

会場には鳩山中学校の生徒及び一般参加の計68人が参加し、オンライン配信は、町内の小学4年生から中学3年生までと、全国からの一般参加者の計400人が視聴しました。

講演は、講師の宇宙飛行士、金井宣茂氏から、スライドを使用しながら、「宇宙開発の現状」、「宇宙飛行士の訓練の様子」、「宇宙飛行士の業務」などのテーマで、実際の体験談を交えながらお話いただきました。

### こんな質問がきました！

中学生男子 無重力は水の中と似ていますか？

金井宇宙飛行士 水の中の浮力を使って船外活動の訓練をしていますが、浮かぶところは似ていると思います。ただ、水の中は抵抗があって水をかくと体が動きますが、空気をかいても体を動かすことはできないため、体を動かすのは、無重力の方が難しく感じます。

中学生男子 月に色々な設備を作ろうという話を聞きますが、地球以外の場所で農業をするメリットは？

金井宇宙飛行士 宇宙ステーションに滞在するにはたくさんの物資を補給する必要がありますが、ロケットで物を運ぶには多大な労力やお金がかかります。そのため、水や空気などは、なるべく宇宙ステーションで再生・生産をして生活しています。月まで多くの食べ物を運ぶと多くのコストがかかるため、月で食べ物が作れないかという研究が盛んになっています。

中学生女子 ここからが宇宙という目印はありますか？

金井宇宙飛行士 当然目に見える目印はないですが、世界的な基準で高度100km以上に達した場合に宇宙に行ったとみなされます。アメリカ軍はその基準を80kmにしています。そもそも地球と宇宙に境がある訳ではなく、今私たちがいる地上も宇宙の一部なので、宇宙と地球を分けるというのは寧ろ逆の考え方なのかなとも思います。

## 町内小・中学校で生配信を視聴しました



かないのりしげ  
金井 宣茂 氏

防衛医科大学医学科を卒業後、外科医師、潜水医官を経て、JAXAより国際宇宙ステーション(ISS)に搭乗する日本人宇宙飛行士の候補者として選抜。ISSの第54次/第55次長期滞在クルーのフライトエンジニアとして、2017年12月から2018年6月までの168日間、宇宙に滞在。

